

『団地再編』 持続的な集住環境へ - 新たな生活像と風景 -

団地再編 COMPETITION2013 を通して、住宅ストックのあり方を考える

拝啓

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度弊社主催公共住宅セミナーを以下の通り開催いたしますので、ご案内申し上げます。

今回のセミナーでは、KSDP 団地再編プロジェクト*1主催「団地再編 COMPETITION2013」を題材に、公共ストックと地域のあり方について、パネルディスカッションや、会場ディスカッションを行います。

団地を住民が守り育て自立的に更新していけるような「まち」に再編する技術開発が進められている中、UR 南花台団地を具体的な対象地として団地再編へのアイデアコンペが行われました。コンペにおいて優秀作品として選出された提案者に作品のプレゼンテーションをいただき、他の有識者も交え、団地を持続的な集住環境へ再編する手法を議論し、公的事業者が果たすべき役割についても考えてまいります。

ご多用中のところ恐縮ではございますが、是非ともご参加賜りますようお願い申し上げます。

敬具

○日時

平成 26 年 7 月 17 日 (木)

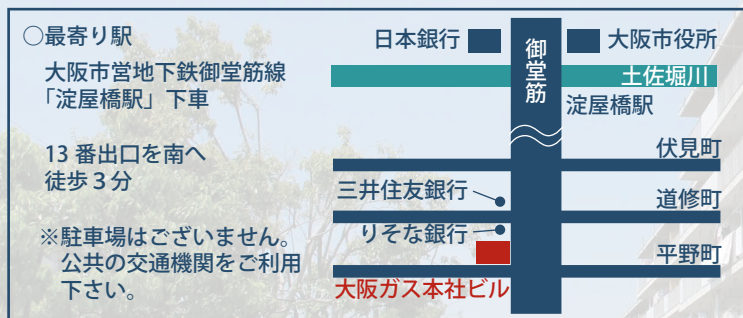
14:00 ~ 17:00 先着 100名様

※展示会は 10:00 ~ 16:30

○場所

大阪ガス本社ビル 3階ホール

大阪市中央区平野町 4 丁目 1-2



○主催 / 協力

主催：大阪ガス株式会社

協力：KSDP 団地再編プロジェクト

※1 関西大学 先端科学技術推進機構 地域再生センター
文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業 (平成 23-27 年度)
「集合住宅“団地”の再編 (再生、更新) 手法に関する技術開発研究」

○プログラム

◆団地再編コンペ優秀作品発表

プレゼンテーション

コンペ優秀作品提案者

◆パネルディスカッション

『公的住宅団地の再編を考える』

ファシリテーター

江川 直樹 氏 (関西大学 環境都市工学部 建築学科 教授)

パネリスト

鳴海 邦碩 氏 (関西大学大学院 理工学研究科 客員教授)

星田 逸郎 氏 (株式会社 星田逸郎空間都市研究所 代表)

安原 秀 氏 (OLAの会 世話人 元(株)ヘキサ)

三谷 幸司 氏 (三谷都市建築設計室)

岡 絵理子 氏 (関西大学 環境都市工学部 建築学科 准教授)

※略歴は、裏面参照。

◆作品展示会

応募全 23 作品 パネル展示

+ KSDP プロジェクト案 ほか

団地再編 COMPETITION2013 の詳細は、ホームページをご覧ください。

団地再編コンペ 南花台

検索

KSDP 団地再編プロジェクト 概要

関西大学先端科学技術推進機構地域再生センターでは、平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究」（平成23年度～27年度）に採択され、他大学の研究者や実務建築家、行政などと協働し、協力を得ながら、学生も参加して、未だ我が国では本格的に実施されていないストック活用型の（大規模公的）集合住宅団地再編手法の開発についての研究を実施している。

わが国の人口拡大・都市化の時代に大量に建設された集合住宅団地は、住宅の老朽化や設備の陳腐化などの物理的な問題のみならず、高齢化率の上昇やコミュニティの弱体化などの社会的問題をも抱えているが、大量のストックがあり資金面の問題等から建て替えは困難で、その多くがストック活用による再生が目されている。その数は膨大で、UR（旧公団）賃貸住宅77万戸のうち57万戸がストック活用の対象とされており、同様の事情を抱える公営住宅の総数は220万戸にもものぼる。

本研究の目的は、事業主体が造りやすく管理しやすい画一的な空間構成となっているこのような集合住宅団地を、住宅等のストックの活用を図りつつ、住民が守り育て自立的に更新していけるような“まち”に再編する技術を開発し実践に活かすことにある。団地建設の時代には産官学挙げて技術開発に取り組んだが、団地再生・再編は、住戸・住棟改善のレベルで事業主体が単独で行なうにとどまっている。「学」が先鞭を切って再生・再編技術の開発とそれを担う人材の育成に取り組むことは、極めて有意義である

と確信する。研究は、いわゆる住戸、住棟の改修、再生というよりは、住民、事業者レベルでは対応できない団地全体の再編手法、それらと連動した居住者や地域のコミュニティの再生、そのプロセス研究をターゲットとしている。近年、我が国のインフラの老朽化とその維持の問題は特に顕在化しているが、団地ストックの再生問題は、実際にそこで暮らしている住民にとって、また地域のまちづくり上からも重要な課題であり、団地の抱える本質に応答する課題認識と、住まい手が主体となれる空間、制度、暮らしへの総合的課題認識が広く重要である。

研究初年度の平成23年度は、わが国の団地再編を視野に、欧米、アジア、国内の団地再編事例の調査研究を主として研究活動を行った。平成24年度は、男山団地（UR賃貸4,600戸、分譲を含め6,000戸）を舞台に、具体的な提案（2012）を行った。86条一団地の再編、その他従来の制度の再編、その結果としての小さなコミュニティ単位化、専門家や事業者、行政との協働で、居住者参加で自らの居住環境を再生（持続的な集住環境への更新）していく提案のイメージであった。男山団地は、人口74,000人の八幡市で13,000人が住むという、地域まちづくりにとって要ともなる団地で、大規模公的団地が抱える課題の代表的な団地である。平成24年末には、これまでにを行った海外等の団地再生先進事例の動向調査、それらの同一スケールでのモデルによる空間比較の紹介と併せ、男山団地での提案の図面とモデルを、大阪（3ヶ所）、東京で公開した。

提案後は団地住民をはじめとしてWS等で検証を重ね、再編方策の具体化を目指して活動を展開し、その後、平成25年度秋には、八幡市・関西大学・UR都市機構が京都府の支援も得て連携協定を締結し、学生と地元での運営による住民コミュニティ活動拠点「だんだんテラス」を開設し、実践的研究プロジェクトに展開している。

パネリスト紹介

江川 直樹：関西大学 環境都市工学部 教授
KSDP 団地再編プロジェクト 代表



経歴：早稲田大学大学院・修士課程 修了
現代計画研究所（東京）を経て、
82年 現代計画研究所大阪事務所 開設
04年 関西大学工学部（現・環境都市工学部）教授
08年 関西大学 先端科学技術推進機構
地域再生センター長

安原 秀：OLA の会 世話人 代表
KSDP 団地再編プロジェクト 研究員



経歴：大阪大学工学部 卒業
70年 安原中筋建築研究所 設立
76年 都市住宅を自分たちの手で創る会 提唱
81年 (株)ヘキサに改組
09年 OLAの会 提唱

鳴海 邦碩：関西大学 理工学研究科 客員教授
KSDP 団地再編プロジェクト 研究員



経歴：京都大学大学院・修士課程 修了
兵庫県技師、京都大学工学部助手を経て、
79年 大阪大学環境工学科 助教授、教授
08年 同 退職
大阪大学名誉教授

三谷 幸司：三谷都市建築設計室
KSDP 団地再編プロジェクト 客員研究員



経歴：大阪市立大学大学院・修士課程 修了
74年 ハーバード大学大学院・修士課程 修了
68年～04年 (株)大林組 建築設計部
04年 三谷都市建築設計室 開設

星田 逸郎：星田逸郎空間都市研究所 代表
KSDP 団地再編プロジェクト 研究員



経歴：神戸大学工学部 卒業
現代計画研究所を経て
01年 星田逸郎空間都市研究所 設立
06年 (株)星田逸郎空間都市研究所に改組

岡 絵理子：関西大学 環境都市工学部 准教授
KSDP 団地再編プロジェクト 研究員



経歴：京都府立大学生活科学部 卒業
大阪大学大学院 博士課程 修了
02年 大阪大学大学院 助手、専任講師
06年 関西大学工学部（現・環境都市工学部）
専任講師を経て、准教授